湘南わかばグループ健康ニュース No.231 2020年1・2月号

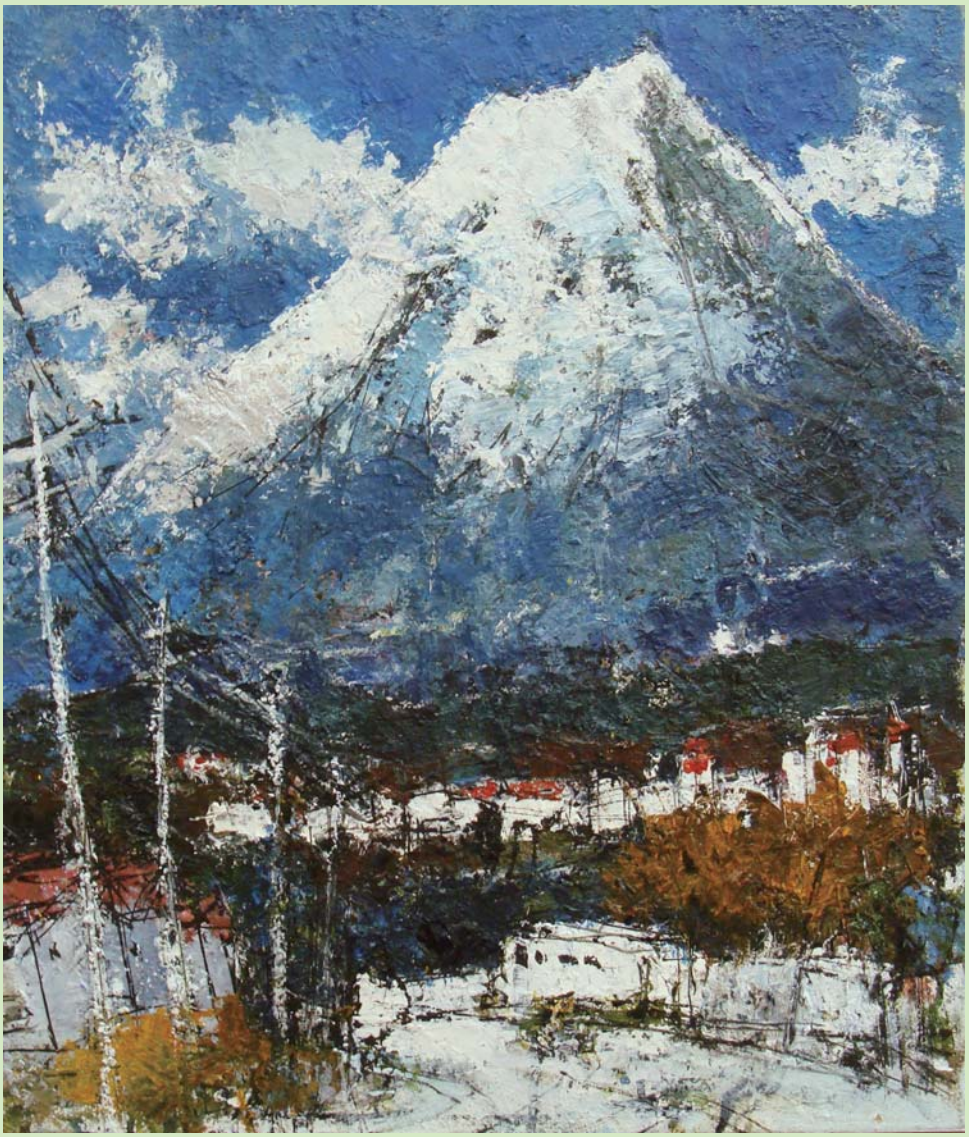
わかば

特定医療法人 社団若林会
湘南中央病院・湘南わかば苑・わかば訪問看護ステーション
若林会居宅介護支援事業所・藤沢市明治いきいきサポートセンター
（地域包括支援センター）
発行者／長田博昭　編集責任者／呉鐵仁
〒251−0056 藤沢市羽鳥1−3−43 Tel0466(36)8151 Fax0466(35)2886
URL http://www.swg.or.jp　E-mail wakaba@swg.or.jp

【理　念】
地域の人々とともに歩み
健康を守り良質な医療と介護を
提供します。

【基本方針】
いつでも受けられる医療と介護
地域に出る医療と介護
包括的な医療と介護
納得ずくの医療と介護

「ときのわすれもの」～住むまちの風景～



タイトル『正月富士』

藤沢市稲荷のやすらぎ荘入口交差点から見た富士山です。交差点右手は湘南藤沢地方卸売市場、後ろは荏原湘南スポーツセンター、正面にライフタウン。その向こうに、堂々とした雪化粧の雄大な富士山が見えます。遠い昔からの富士見スポット。
古墳時代からの集落跡が発見された池ノ辺遺跡の看板が、交差点近くにあります。大庭大橋の下は大庭御厨で、鎌倉時代にあった伊勢神宮の寄進型荘園のひとつだったそうです。（作者　蓮池高夫／企画　宮原青子）

新年あけましておめでとうございます

主な記事

新年の主張「全世代型社会保障検討会議」に注目しよう!! …… 湘南中央病院名誉院長・湘南病院協会会長 今井重信（2）
ワンポイント・クリニック ～今日の一針、明日の十針～ …… 鍼灸室 深瀬実結（4）
一代記 或る外科医の一代記「中学生の頃③」 …… 理事長 長田博昭（5）
エッセイ「引越しのアイテム」…… 宮原昭夫（6）
地域「●●」 …… 藤澤浮世絵館 細井守（7）
こえ 投書箱から …… 統括事務部長 伊藤稔（7）

「全世代型社会保障検討会議」に注目しよう!!

新年 おめでとうございます

昨年9月20日、安倍首相を議長とする「全世代型社会保障検討会議」という会議が発足し、第一回会合が開かれました。私はこの会議が、今後のわが国の社会保障のカギを握る重要なものだと考えていますので、今年の新春はこの話題を取り上げます。

湘南中央病院名誉院長
湘南病院協会会長
今井 重信

Ⅰ どんな会議

会議メンバーは閣僚7名、有識者9名。閣僚は議長安倍首相、議長代理西村担当相、麻生財務相、菅官房長官、高市総務相、加藤厚労相、菅原経産相（事後に梶山氏に交代）という錚々たる陣容です。

また有識者については肩書が多くいちいちお名前は出しませんが、全員が政府の何らかの「会議」の委員であり、所属する会議は次のようなものです。

経済財政諮問会議、未来投資会議、社会保障審議会、社会保障制度改革推進会議、労働政策審議会などです。どう思われますか。ほとんどが政府の経済と財政に関する会議ばかりです。日本の将来の社会保障を検討するのなら、国民各層の関係者をもっと集めるべきでしょう。

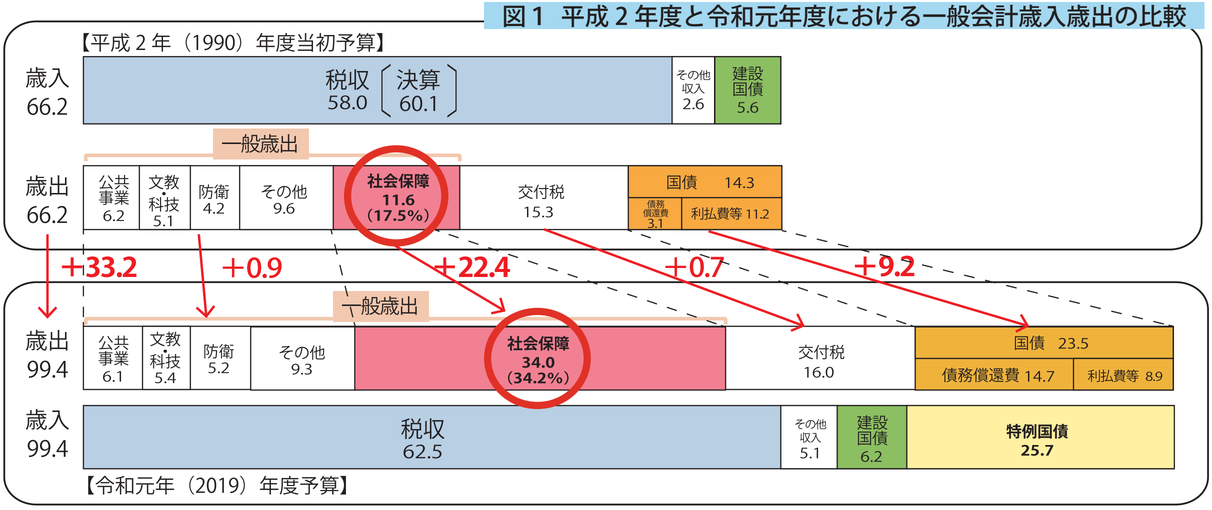
しかし一般国民や患者さんの代表はもとより、社会保障を提供する事業者（例えば日本医師会等）も入っていません。これでは経済財政の立場だけからの「検討会議」にしかならないと思います。

会の目的については第1回会議の議事録を読みますと、会議メンバーの問題意識ははっきり打ち出されています。それは社会保障の「給付と負担のバランス」を正すことです。どう正すのかは、「給付をへらし負担をふやす」ことなのです。そのことは会議の一メンバーの、「給付と負担の見直しは必要だが、見直しによって経済的な格差が拡大せぬよう留意すべき」との発言でも明らかだと思います。

Ⅱ 給付と負担のバランスとは

政府や有識者の問題意識や危機感は、一般会計予算の過去30年間の推移に基づいています。図1を見てください。

図1 平成2年度と令和元年度における一般会計歳入歳出の比較



平成2年に比べ令和元年には「社会保障歳出は約3倍に増え、一方で税収がほとんど増えていないので、特例国債の発行を余儀なくされている」、「このことは国の財政危機であり、社会保障の給付と負担のアンバランスを正し、社会保障費と国債発行を減らす必要がある」、それが政府の考えであり、また今回取り上げた「検討会議」の真の目的なのです。

もしこの方針が実行されれば、将来の社会保障のレベルは低下し、国民一人一人の負担は現在よりも増えるでしょう。その意味でこの「検討会議」の内容は、国民全体が注視すべきだと私は考えています。

「給付を減らし負担を増やす」動きは、すでに始まっています。

第一は、公立・公的病院の統廃合です。昨年9月24日厚労省は突然、全国の「機能の再検討を要する」424の公立・公的病院の名前を公表しました。「機能の再検討」とは、平たく言えば廃止、縮小、合併、機能転換などです。地域の患者の入院機会を奪う措置以外の何物でもありません。

そのほかでも、後期高齢者の窓口負担を原則2割にすることや、「外来定額負担」の導入とか、負担増への動きは次々と登場しています。

政府は社会保障費高騰を喧伝しますが、なかでも目の敵にしている総医療費にしてもGDP比率は10％程度でOECD諸国中6番目なのです。ちなみに米国は17％を超えています。

Ⅲ 国債と税金について

政府が社会保障改革の根拠にしている**図1**には、もっと大きい二つの問題があります。

まず「**国債**」についてです。今年度の特例国債は25兆円強ですが、この是非については経済学者間でも意見の相違があります。是とする意見は、国債が国内で賄えていれば問題ないとの立場で、社会保障のためならさらに増やして老後の安定を図り、ひいては景気循環にもプラスになると言います。

否とする意見は国家財政が借金で成り立っていること自体が異常事態であり、国の財務運営は財政中立が理想だと見なします。私も国の借金はないか少ないほうがいいとは思いますが、そのお金が社会保障の維持のために使われるのであれば、国民への一種の還元だと考えてもいいのではないでしょうか。

次に「**税金、特に消費税**」についてです。

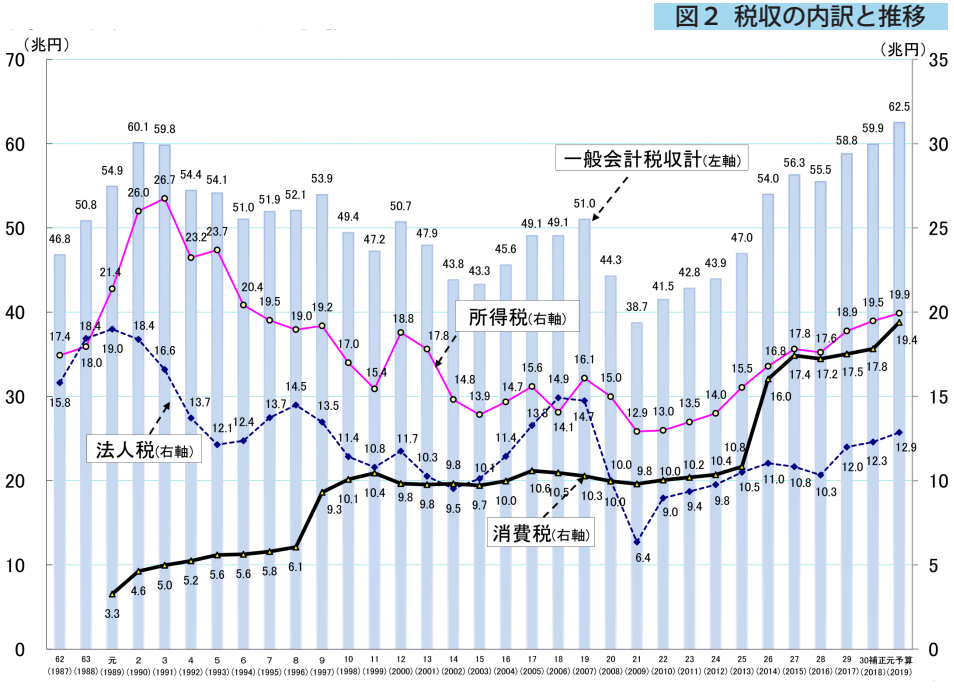
図1をもう一度見てください。平成2年と令和元年の一般会計税収を比較すると、驚くなかれ両者ほとんど同じなのです。おかしいと思いませんか、その間30年で消費税は0％から10％にまでアップしたのです。そのお金はどこに行ったのでしょうか。

今度は**図2**を見てください。そのお金は所得税と法人税の削減に使われたことがわかります。所得税は累進課税の緩和により、法人税は大企業の税率圧縮によってです。その結果この30年間で貧富の格差は大幅に進み、大企業は460兆円もの内部留保を獲得しました。消費税は社会保障の充実のために使われたのではなかったのです。

10％になった現在、消費税はなんと主税になってしまいました、大衆課税の消費税がです。これこそ租税のバランスが崩れている姿ではないでしょうか。消費税を何％にするかは政治の決めることですが、すくなくとも法人税と所得税を平成2年レベルにまで戻せば、消費税分は今度こそ社会保障充実に向けることができるはずです。

政府は社会保障の「給付と負担のバランス」などに頭を悩まさずに、「租税のバランス」の改善に取り組んだほうが、よっぽど明るい社会保障の将来像が描けるのではないでしょうか。

図2 税収の内訳と推移



資料：図1・図2　財務省「日本の財政関係資料」より

ワンポイント・クリニック

～今日の一針、明日の十針～

鍼灸室
鍼灸師　深瀬　実結

新年明けまして
おめでとうございます

さて、寒の入りとともに寒さが一段と厳しくなりましたが、冬季は、身体の不調に悩まされる方が比較的増加します。

怪我をしやすくなった。膝や腰が痛い。手足が冷えて辛い。年末年始に暴飲暴食をしてしまい、胃腸の調子がなんとなく悪い。

一言で身体の不調といってもその内容は人それぞれ異なるものです。より健康的に、より元気良く生きていくためにはどうすればよいのでしょうか？

「今日の（きょうの）一針（ひとはり）、明日の（あすの）十針（とはり）」という諺があります。処置が遅れる程、負担がかさむことのたとえで、「A stitch in time saves nine.」（時宜を得た一針は、九針の手間を省く）と同義です。

人間の身体は、機械とは違うので壊れたからといって簡単に部品交換ができるわけではないし、気に入らないからといって取り替えることもできません。その上、時間も有限です。そうなると、如何に今ある自分の身体を大切に、長持ちさせるかが重要になってきます。

病気になってから治療するのでは、経過が長い分時間もかかり、状態もそれだけ悪くなってしまいます。そのため、軽い不調のうちに改善し、ひどくさせないようにする必要があります。

そこで大切なことが**セルフケア**です。自分で自分を管理し、自己節制していくために自身の健康に責任を持つこと。そのために、自分の心身の状態をしっかりと把握すること。これが**セルフケア**を行なう上での基本であり、一番大切なことです。せわしなく過ぎていく日々の中でこれらを実行するのは簡単なことではありませんが、より良い生活のためには必要なことです。最近は健康番組やネット等の影響もあり、健康に関する情報がたくさん耳に入りますが、全てを取り入れるのは大変ですし、実用的ではありません。

まずは、いいなと思うものや、これならできそうだと思うものを試してみて下さい。その中から、自分に合ったものを選択していくことで最適の**セルフケア**が見つけられるでしょう。

東洋医学では、「治未病」（未だ病まざるを治す）という考え方を重視します。

それは、健康状態から病気になる事を防ぎ、また、疾病がある状態に於いては進行を防ぐ治療をすることが大切だという、予防治療に重きをおいた考え方です。

人の健康状態は、生きている限り常に揺らいでいるものであり、はっきりと区分することはできません。度合いに差はありますが、些細なことと思われる因子によっても、容易に変動します。

不調は、身体からのサインです。何か不調があらわれた時は、自分の生活を振り返ってみて下さい。原因に繋がるヒントが発見できるかもしれません。

しかし、人間は一度思い込んでしまうとなかなか考えを変えられないものです。誰かに相談してみて、違う視点からの意見を参考にすることも原因解明の近道になるかと思います。

明治地区福祉推進会議　主催

健康よもやま話

認知症
膝痛　メタボ
腰痛　軟骨のすり減り
筋力の衰え

＜開催日時＞
2020年
2月1日(土)
午前10時～11時45分

講師：湘南中央病院　名誉院長　今井　重信

＜場所＞藤沢市明治市民センター４階　ホール

定員：100名
（申込み不要）

お問い合わせ　明治市民センター地域担当　0466-34-3444

一代記

或る外科医の一代記　中学の頃③

理事長　長田 博昭

「世界名作全集」を卒業し、文庫本や雑誌を読む様になった。駅前の本屋は爆撃から焼け残り、戦前から営業していて、母もそのお上さんを識っていた。本代だけは何故か小遣いに恵まれた。フランスの箴言集とか、論理学の入門書なども読み耽ったのを思い出す。　ラ・ロシュフコーだったかどうか今は定かではないが、「男は女に恋するが、女は恋に恋するのみ」などの名言を、そんなものなのかと噛みしめていたのもこの頃であった。（注：そんなものだと今では確信している。）

その頃、先に触れたドイツへの関心が大きかった。と言うのは、三国同盟で戦争した事実の結末であった焼け跡の中で物心がついた自分としては、日本が負けた理由と、ドイツがなぜ戦争に向かったのかを識りたかったのである。いや、後者に関しては、実はヒトラーが如何に政権を取ったのかを詳しく知りたかったと言う方が当たっている。岩波の雑誌「世界」の表紙目録に「ドイツ第三帝国の政治史」とか言う論文があるのを見て買って帰り、若干難しい文章に取り組んだ事もあった。そしてナチスの政権は総て選挙での多数獲得で成り立った歴史を知った。

つまり、第一次世界大戦から間もないワイマール民主制下でのドイツ国民の多数票がナチスを成立させたと言う事だ。民主制であれば安心と言う訳にもゆかないと悟った訳である。今の日本も現政権に衆議院の 2/3 を与えた数年前の選挙から政権の暴走が始まった。中学生の時、こんな事は想像だにしなかった。我々は歴史から何も学んでいないのではないかと今改めて思う。

なぜか中学生の頃の記憶は余り多くない。今思えば、後に続く高等学校時代への準備期間であったような気がする。読書の癖だけは急速に強くなった。座右の書と言う言葉がある。私の座右には（注：実際は左側の本箱に入っているが）中学以降愛蔵してきた 6 冊の書がある。特別の油紙でカバーをかけずっと離さず持って来たものだ。

一番初めのものは昭和 28 年発行第十刷の岩波文庫版、アンドレ・ジイドの「狭き門」と「田園交響楽」2 冊を一つに纏めたものである。旧かな遣いの川口篤「譯」で、プラトニックラブと言う概念を、プラトニックではないラブを経験する前に識った訳であるが、「狭き門」の結びの二行「・・・彼女は泣ゐているらしかった。ラムプを持って女中が入ってきた。」の下りには、何度読み返しても感動を覚える。勿論、全編を通しての切々としたラブレターのやり取りを繰り返し読んだ感動が忘れられないからである。（注：この本を入手するに至った経緯とその後の展開・帰結について、いつか語ろう。今はだめ！）

友人は人が成長するのにとても大切な存在である。Y 君と言う京都の付属小学校から来た同級生と親しくなった。京都弁と大阪弁とは微妙に異なる。首都圏の会話で、「何だい、Y 君？」と言う時、大阪では「何や、Y ？」と言うが京都の人は「何え、Y ？」と言う風になる。大阪と奈良の境に二上山と言う山があり、ある日彼と二人で弁当を入れた学校のカバンを肩に斜めに掛け山に上った。人生論や男女論（？）を語り続け、日暮れて帰阪した。後に Y 君は私と同じ大学の理学部に進み、理論物理学の大家になった。

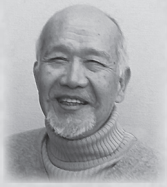
後日彼が結婚する際、式の司会を頼まれたが、依頼に来た彼が進呈してくれたヘネシーのブランデー VSOP が甚く好きになった。10 年位そのストレートを楽しんだが、食道癌が怖く水で割る様になったものの、味覚的興醒めで以後はやらなくなった。その Y 君とも今では年賀状の交換程度になってしまったが、後の高等学校で学業の上で競った事を別にしても、私にとって存在感の大きな友人である。

座右の書 2 冊目以降はおいおいご紹介しよう。

続く…

引越しのアイテム

話の道草



宮原 昭夫

「今度の『わかば』のエッセイは『夜逃げのアイテム』って題にしようと思うんだ。内容は昔の荷物運搬システムでね。例えば江戸時代から昭和の初年までは、大八車ってもんがあってね。ほら、時代劇で長屋から夜逃げする時なんかに活躍する、あの荷台から車輪まで木で出来た荷車だよ。私の子供の頃でも、肥し屋さんが大八車に肥桶を積んで汲み取りに来たもんだよ」と私が連合いに得々と語ったら、相手は暫く黙っていてから「今度の号は新年号よ。それが夜逃げと肥汲みですか？」と静かに言いました。

「……やっぱり、マズイだろうな」私は力なく呟きました。

というわけで、この際、大八車の話題は早々に切り上げ、昭和初年から、それに替って登場する「リアカー」の話に移ります。

現代物流社会の根幹を担うのは、大型トラックから、トレーラー、貨物列車、コンテナ船、貨物飛行機その他ですが、ここでの話題は、それとは別の、往時の引っ越しのような小規模の運搬です。

リアカーは、現在はクロネコヤマトが電動アシスト自転車で引っ張ってお歳暮の配達などに回っているので、ご存じのかたも多いと思います。車体は鉄パイプ、車輪はワイヤスポークとゴムタイヤなので軽量。大八車と違って車軸がなくて、方向転換の際車輪が別々に回るので、すり減らない、等々のメリットで、忽ち大八車を駆逐しました。

それには、どうやら故障の折りに近所の自転車屋さんに持ち込めば済むというメンテナンスの簡便さも大いに預かっていたようです。大八車だと大工さんに頼んで大仕事になりますからね。

リアカーとは和製英語で、1921 年に我が国で発明されたそうです。連合いなどは、幼い頃に怪我で医者に担ぎ込まれた時もリアカーに積まれて行ったそうです。当時は救急車の役目まで果たしていたのですね。

ここまでは専ら動力は人力でしたが、やがてわが国にもモータリゼーションの時代が訪れ、リアカーの全盛時代は終ります。我が国ではいまや前述のような特殊な用途や焼き芋の屋台とかホームレスの世帯道具などとして細々と命脈を保っているようです。

リアカーに少し遅れて登場したのが「オート三輪」です。今でこそオートモビルと言えば四輪と二輪ですが、戦前はそれらに肩を並べて三輪が幅を利かせていました。これは貨物用の三輪トラックの日本での俗称で、戦前 1930 年代から戦後も 10 年程は我々の身近な運送を専ら担っていました。オートバイ式の棒ハンドルでアクセルなどはグリップに付いていました。

戦後私が初めて関係した藤沢市の市会議員選挙では、宣伝カーさえもオート三輪でした。大学生だった私が、止せば良いのにその運転を買って出て、踏切でエンストを起こし、候補者を含め全員で車を線路外へ押し出した苦い経験は、冷や汗と共に未だに忘れられません。

戦前は、なんとオート三輪の運転は免許が要らなかったのですね。そのお陰で隆盛を極めたものらしく、従って戦後 1947 年にオート三輪が免許制になったことで「軽トラック」にその席を譲ったようです。

ところで「オート三輪」と「軽三輪トラック」とは別物で、大きさや排気量、免許も別だったそうです。ああ、ヤヤコシイ。（ちなみに当時馴染み深かった「ダイハツミゼット」は軽三輪だと私は今頃になって知りました。）

オート三輪も軽三輪も 1970 年代には「軽四輪トラック」によって駆逐され、今では我が国では見かけられないのですが、東南アジアではタイの「トゥクトゥク」やインドの「オート・リクシャ」のように人間用の軽便タクシーとして生き延び、中国の地域社会ではオート三輪トラックのまま活躍しているそうです。

昭和ヒトケタ生まれの私にとって「昭和」とは、まさに「リアカー」と「オート三輪」の時代でした。

昭和も遠くなりましたね。

「浮世絵で識る藤沢」

第13回「めでたい江の島の浮世絵」

藤沢市　藤澤浮世絵館　細井 守

湘南海岸に浮かぶ江の島は、今も昔も藤沢の観光のシンボル的な存在ですが、浮世絵では、当初は日の出の図などとセットで中国の神仙思想にある蓬莱山になぞらえて描かれていました。

図1. 勝川春章「相州江之島ノ風景 腰越ノ方ヨリ見図」

図1の「相州江之島ノ風景 腰越ノ方ヨリ見図」（制作年代、天明年間〔一七八一～八九年〕）では、江の島は右手の富士山と、日の出を暗示する朱色の雲とのセットで、いわゆる「めでたい」作品（吉祥画）として描かれています。作者の勝川春章は江戸時代中期を代表する浮世絵師で、弟子の一人に葛飾北斎がいます。

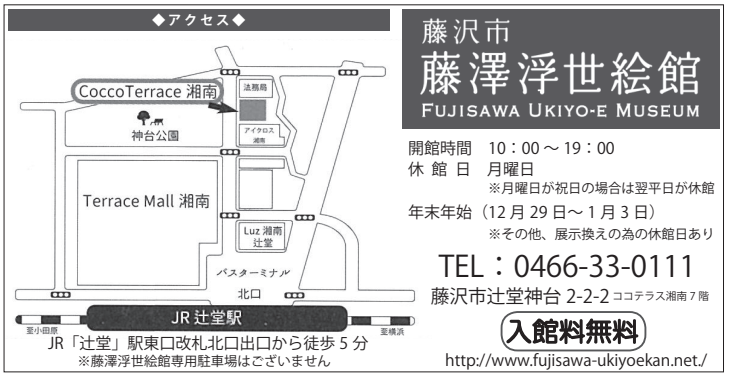
図2. 北尾政美「相州江嶌風景 由井浜地引網之図」

図2は春章と同じ時期に描かれた北尾政美「相州江嶌風景 由井浜地引網之図」（制作年代、天明年間）。由比ガ浜（鎌倉）の海岸での地引網の情景がユーモラスに描かれていますが、背景は、蓬莱山を模した江の島と富士山（右奥）、画面上下の朱色の雲という、吉祥画スタイルになっています。これは初期の風景画が、のちに流行る東海道五十三次の名所絵とは異なり、吉祥画として売られていたためでしょう。

図3の落合芳幾「福神江の嶋もうで」（制作年代、一八五九～七一年頃）は、江の島から登る朝日を背景に、七福神のうちの恵比寿・大黒と千両箱という、ストレートに「めでたい」図柄です。江戸末期の浮世絵の特徴で、赤や紫に輸入物の鮮やかな人口顔料が使われています。

図3. 落合芳幾「福神江の嶋もうで」

藤澤浮世絵館では、12月3日（火）～2月16日（日）、展示会「浮世絵双六と七福神」を開催しています。



投書箱から

●患者さんよりご意見をいただきました。

「外来受付が終わり30分待ち、呼ばれました。そこでレントゲンを撮るように言われましたが、外来受付の後30分待たされている間にレントゲンが撮れたのではないでしょうか？とても不快な気持ちになりました。」というご意見です。

当院では、できるだけ患者さんの待ち時間を少なくするよう医師・看護師・スタッフ間の連携を工夫しながら対応させていただいておりますが、まだまだ不足な点もあることも承知しております。引き続き、より一層努力して待ち時間の短縮に努めて参ります。

また、早めにご来院され受付を済まされましても、診療開始時間（午後の場合は15時から診療開始）まではお待ちいただくようになりますのでよろしくお願いします。

貴重なご意見ありがとうございました。

統括事務部長　伊藤　稔

おしらせ

◆１月の外来診療担当表◆

2020.1.1 現在

専門外来

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内分泌（糖尿病）	午前 午後		酒井（午前）予約		酒井（午前）（午後）予約		酒井（午前）予約（第3.4）
呼吸器内科	午前	福﨑 予約					
肛門外科	午後	松﨑					
日帰り手術外来	午前						松﨑 予約（第1.3.5）
胸部 化学療法 外来	午前		長田 予約				
外科 呼吸器	午後					長田 予約	
乳腺甲状	午前			○			
皮膚科	午前			露木			
心療内科	午前				三吉 予約		
神経内科	午前 午後					松川 予約	
リハビリ科	午後	馬渕 予約					
リウマチ科	午前						永渕（泰）予約
緩和ケア科	午後	福﨑（午前）予約		片町 予約		片町 予約	
禁煙外来	午後	小川 予約	小川 予約		小川 予約	小川 予約	小川（午前）予約（応相談）

一般外来

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内科	午前	村川 一般	岡田 一般 循環器	新城 一般	岡 一般 神経内科	新城 一般	岡 第1・3・5 新城 第2・4
		岡 一般 神経内科	岡 一般 神経内科	岡田 一般 循環器	永渕 一般	永渕 一般	永渕 第1・3・5 岡田 第2・4
		-	-	-	相澤（予約）	相澤（予約）	相澤 第2（予約）
	午後	奥脇（裕）一般 消化器	永渕 一般	-	新城 一般	村川 一般	-
		岡田 一般 循環器	-	-	-	相澤 第1・3・4・5（予約）	-
外科	午前	呉	池田（清）	呉	長田	松﨑	松﨑 一般 第1.3.5は日帰り手術外来併科（予約）
	午後	松﨑 一般 肛門	長田	-	呉	池田（清）	
		-	-	-	-	長田 一般 呼吸器	-
整形外科	午前	池田（全）	庭山	池田（全）	芹ヶ野	中島	芹ヶ野
		今井	今井	山本	今井	森田	森田
	午後	芹ヶ野	庭山	-	池田（全）	今井	-
		-	森田	-	-	-	-
泌尿器科	午前	多田	多田	多田	多田	多田	多田（花井）
	午後	-	多田	-	-	-	-
夕方診療	午後	-	呉 4:30~7:00	-	-	-	-

外来診療受付時間	午前　8：30 ～ 11：30 ※再診受付　午前 8：00 ～ 午後　2：30 ～ 4：30
休　診	水曜午後、土曜午後、日曜日・祝日

※医師の都合等により休診・代診となる場合がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

地域とつながる nurse
「あったかい看護」がある
看護職員・介護職員募集中！

編／集／後／記

明けましておめでとうございます

令和になり最初のお正月を迎えました。毎年12月に発表される「今年の漢字」はやはり「令」でした。そこで過去の漢字をふと振り返ってみたら、2000年「金」、2012年「金」、2016年「金」でした。お気づきだと思いますが、全てオリンピックの年で、日本選手が最多の金メダルを獲得したことなどにちなんで「金」という漢字が選ばれました。とくに、2016年の「金」は、今年開催される東京オリンピックへの期待も込められているそうです。今年の漢字も「金」でありたいですね。

最後に私の「座右の書（銘）」というほどでもないのですが、本棚にいつも常備している本が、ヘミングウェイの『老人と海』です。その中で好きな一節が「きっときょうこそは。とにかく、毎日が新しい日なんだ」「人間は負けるように造られてはいないんだ」です。今年の抱負とします。

みなさんが良い一年になりますように。

（人事・広報課　鈴木　研）

湘南中央病院 今月のギャラリー（2020年1～2月）

写真集団「月見草」富士山写真展

世界の山として最も愛する山 「富士山」
「その雲、彩（いろどり）、光の変化」のテーマのもと、会員一同よりよい作品作りに励んでいます。太宰治の小説「富岳百景」に富士には、月見草がよく似合うを拝借して、私達の会の名前としました。皆様のご指導よろしくお願いいたします。ご高覧ください。

連絡先：齋藤　俊士　電話 090-2623-3138